2012 J.League Division2
第３４節 栃木ＳＣ 戦

9/17（月・祝） 19:00～
@長良川球技メドウ

ＦＣ岐阜大好き通信（岐大通）
9/17号
編集発行：『岐大通』製作委員会
今号の製作担当：
ささたく＆吉田鋳造

today's guest : 栃木 SC　2011 J2 15勝 11分 12敗　勝ち点 56 第 10位

1953年に創設された『栃木教員サッカークラブ』は、1994年から『栃木SC』に。1999年に関東リーグに昇格していきなり優勝、地域決勝でもアローズ北陸（現：カターレ富山）に次ぐ２位でＪＦＬ昇格を決める。ＪＦＬでは９シーズンを戦い、2008シーズンで２位となり、カターレ、ファジアーノ岡山とともにＪ２昇格となる。（吉田鋳造）

前節、アウェイ北九州戦を落としてしまったＦＣ岐阜。試合早々の不用意な失点がなければ…と思えるような試合内容だっただけに、ここで勝ち点を積み上げられなかったのは痛かった。残留争いをしている鳥取、富山が勝利し--たため、順位も１つ後退して20位、「降格圏」の21位・富山との勝ち点差はわずかに１となってしまった。
さて、今節の対戦相手は栃木ＳＣだ。現在は９位でＪ１昇格のプレーオフ争いをしており、その当確線上にあるチームなので、「なにがなんでも勝ち点３を獲る」という意気込みで向かってくるだろう。現在、９得点を挙げてチーム得点王の＃８ＦＷ廣瀬や７得点の＃28菊岡、６得点の＃９ＦＷサビアなど、得点力豊富で優秀な選手が揃っているし、松田監督体制で４年目を迎えており、チームとしての成熟度も高い。なによりも栃木は、かつてＦＣ岐阜の主力選手だった＃10高木和正（2006～2009年まで在籍）、＃14菅和範（2008年～2011年まで在籍）が在籍するチームだ。厳しい対戦相手であると同時に、選手たちはお互いに「絶対に負けたくない」と思っているだろう。その理由もあってか、Ｊリーグでの通算対戦成績は３勝２分３敗、得失点差０と完全に互角。ＪＦＬ時代から対戦しており、Ｊ昇格を争ってきた（岐阜は2008年に、栃木は2009年に昇格）相手でもあるので、チームだけでなく、サポ同士のライバル心も激しいだろう。逆に言えば、中２日の厳しいコンディションでも勝利への執念を激しく燃やして戦うことのできる相手だとも言える。チームとしては、天皇杯、そして前節と複数失点をして敗戦しており、まずは守備の立て直しが求められるだろう。しかし、東京Ｖ戦からＳＢで活躍していた＃７地主園が、北九州戦の試合中に、右足骨折という大怪我を負ってしまい（手術前なので全治は不明）、出場は無理だ。一方で、２試合の出場停止を受けていた＃25ＣＢ関田が今節から復帰できる。また、先日新加入が発表された＃36ＤＦ森安洋文も今節から出場できる。限られた時間の中で、どのような守備陣を試し、実戦に臨むのだろうか。また、攻撃陣では、＃10樋口がここ２試合で３得点と調子を上げてきているのが好材料だ。栃木の要である＃７パウリーニョが累積警告で出場停止ということもあり、攻撃陣が相手の守備を切り崩してゴールを奪い、この距離の近いピッチでチームとサポとが一体となって共に勝利の喜びを分かち合う…そのために、どのような選手起用や戦術、そして采配をするのだろうか。選手の奮起にも期待すると同時に、行徳監督の手腕にも注目が集まる、熱い試合となるだろう。
（ささたく）

2012J2■順位表■第３３節

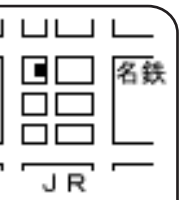
勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績（岐阜から視て）

1	甲府	67p	+22	47	25	H●	A△
2	湘南	63p	+21	53	32	A●	
3	大分	58p	+16	48	32	H●	A△
4	千葉	57p	+23	46	23	A○	H△
5	山形	56p	+13	47	34	A●	
6	京都	55p	+8	44	36	H●	
7	東京Ｖ	54p	+16	52	36	A●	H○
8	横浜FC	53p	+10	48	38	H●	
9	栃木	53p	+7	40	33	A△	
10	北九州	49p	+3	40	37	H○	A●
11	岡山	48p	+1	29	28	A○	H●
12	水戸	46p	+1	37	36	H●	
13	松本	44p	-3	31	34	H●	
14	徳島	43p	0	34	34	A●	
15	草津	40p	-6	26	32	H△	A△
16	福岡	38p	-7	45	52	A△	H●
17	熊本	37p	-12	28	40	A●	H●
18	愛媛	34p	-2	36	38	H△	A△
19	鳥取	27p	-40	25	65	H△	A●
20	岐阜	26p	-25	19	44	═	═
21	富山	25p	-19	28	47	A●	H△
22	町田	23p	-27	23	50	H○	

Living in Woods
本庄工業株式会社
http://www.honjo-woodream.com/

ALADDIN
何も無い店だけど・・
心の花が咲く・・
何も無い店だけど・・・
心　癒される・・
忘れかけていた喫茶店がある
岐阜市昭和町３丁目（木ノ本公園東）

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。
『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から
徒歩３分。
休：日曜日（今日は営業しています）



岡田歯科医院
岐阜市加納新本町 1-23
tel:058-273-8998

◇『岐大通』バックナンバーのお知らせ

すべてのバックナンバーを「吉田鋳造総合研究所」でpdfファイルを公開しています。配布時はＡ３サイズだったものも、こちらではご自宅などで印刷しやすいよう、すべてＡ４サイズに修正いたしました。下記アドレスをご参照ください。

http://www.cyic.co.uk/fcgifu/gidaidohri.html

次回 HomeGame
第35節 湘南ベルマーレ戦
9/23（日） 19:00
@長良川球技メドウ【いつもの「メモリアル」ではありません】

投稿募集！ gidaidohri@hotmail.co.jp

【第32節】岐阜1-0東京Ｖ

●およそ勝負事の世界で、「負けていい戦い」なんてのはあり得ないだろう。まして、残留争いをしているＪ２下位のチームなら尚更だ。しかし、それでも敢えて「絶対に負けられない戦い」をランク付けするならば、今までの（少なくともＪリーグ期の）ＦＣ岐阜としては、この東京ヴェルディ戦が一番大事な試合だ…僕は、そんな意気込みでこの試合に臨んだ。
前日９月１日、経営不振の責任をとって辞任した今西前社長に代わって、薫田社長が就任した直後の試合。新たな門出となるクラブの今後を占う意味でも大事だし、試合前にはこれからクラブを引っ張ってゆく薫田社長の、そして試合後には（経営責任はあると思うけれど）クラブの最大の功労者である今西さんの挨拶も予定されている試合。無様な試合など許されるはずがない。約２ヶ月間（１０試合）勝っていないし、ヴェルディとの対戦はこれまで散々な成績（０勝２分６敗）だし、今季ＤＦ陣の中心選手である＃25ＣＢ関田が累積警告により出場停止だし、非常に厳しい条件ではあるけれど、今日はそんなの関係なく、絶対に勝つ…そう思っていた岐阜サポは多かっただろうし、そして勿論、選手たちはそう思っていたに違いない。
とはいえ、守備の柱を欠いた状態で、攻撃力が自慢の東京Ｖ相手にどんなスタメンにするのかな…と思っていたら、“行徳マジック（サプライズ？）”が炸裂（苦笑）。なんとＣＢに＃３池田、右ＳＢに＃７地主園、＃６ハットさんの１ボランチ、そして＃35ダニロの１トップ。実戦はじめての布陣で大丈夫なのかな？と正直不安になったんだけど、これが見事にハマる。
地主園は、初めて（後から聞いたところでは、練習では試されていたらしい）のＳＢを上手くこなしていた。得意のドリブルでボールを持ち上がるシーンが何度も観られたし、ＭＦの廣田との相性も良かったように思う。久しぶりの出場だった池田も、ベテランらしく攻撃の芽を摘んでくれていた。ダニロは（意外にも？）空中戦の競り合いに強く、ボールを上手く捌いていた。そして何より、全員の選手たちが激しく走り回り、「勝ちたい」という強い気持ちが感じられた。特に＃14井上平は、古巣ヴェルディ相手という事もあってか、いつも以上に縦横無尽に走り回っていた。
とはいえ、Ｊ１昇格争いをしている東京Ｖが相手なので、基本的には守備の時間が長くなる。ほぼ決定機は作らせなかったけど、こちらも決定機は39分のものぐらいだったろうか。でも、そのあと少し足が伸びたらゴール…という場所に突っ込んでたのが＃４ＣＢ田中秀人だったのには、やはり彼もこの試合に期するモノがあるのだろうと、胸が熱くなった。
０－０で迎えた後半、ビックリしたことに東京Ｖの選手たちの動きが鈍くなる。これまでの対戦では、彼らにドリブルで何度も仕掛けられて、徐々に守備陣がそれに耐えられなくなって失点…という印象が僕にはあったので、これには驚くと同時に「やはり今日は勝つしかない！」と更に気合いが入った。そして、後半22分。タイラがＤＦを上手くかわして、前方に走り込んできたダニロにパス、これをダイレクトで撃ったシュートは…ＧＫの脇を抜けて、ゴール！ゴール！ゴール！待ち望んだ先制点に、そして両手を広げて僕らサポーターの前に走ってくるダニロに興奮して（ついでに言うと降りしきる雨も関係して）、コアゾーンはごちゃごちゃに（苦笑）。ダニロ、素晴らしいシュートだった！でも、贅沢を言って本当に申し訳ないんだけど、後半８分の絶好機も決めて欲しかったな…（笑）。
その後は、勢いづいた岐阜が更に試合を優位に運ぶ。終盤には東京Ｖの猛攻を浴びて、若干危ないシーンも見られたけど、全員が必死に走り、身体を張ってゴールを死守してくれた。そして、試合終了のホイッスル。歓喜の瞬間。５年間で初めて、ヴェルディに勝つことが出来た。やはり、全員で最後までひたむきに走り、ボールを追い、勝利を目指すことが出来れば、強いチームにだって勝てるのだということを、選手たちは身をもって証明してくれた。この経験を糧に、チームがステップアップしてくれることを願ってやまない。更についでに言うと、僕は（気持ちが入り過ぎていたらしく）無理しすぎて若干の酸欠と、試合直後から筋肉痛になってしまった（苦笑）。
試合終了後、今西さんの挨拶があった。そして、僕らサポーターの前にも来てくれた。ほぼ同時に、ダニロも僕らの前に挨拶に来てくれた。クラブの功労者との別れを惜しむ声と、今節の殊勲者を讃える歓喜の声とが入り交じり、なんとも不思議な、このまま時間が止まって欲しいような、そんな試合終了後の光景に僕は感じられた。
（ささたく）
●遂に、というか、ようやく東京Ｖに勝利！ダニロがゴールを決めてからの約25分。終了のホイッスルが鳴るまでの長かったこと。プレーが止まるたびに時計を確認したが、針がちっとも進んでないような気がしてもうどうしようもなくて、ただひたすら声を出すしかなかった。こんなことはずいぶん久しぶりの感覚。でも、ホントは「久しぶり」じゃマズいし慣れていかなきゃいけないんだけどね、勝つことに（苦笑）。
それにしても、「どうして勝てないんだろう？」と悩まされた東京緑。北九州がＪ参入のシーズンに１勝しかできなかったけど、その相手が東京。他のクラブも何なく、とは言わないがそれなりに結果を出しているのに、ウチだけが勝てていなかった。引き分けが２試合。先制しても追いつかれるし、基本的なテクニックの差も見せつけられて何度歯ぎしりしたことか。勝利を挙げたことのない相手は他にも甲府とか湘南とかがいるけれど、ウチとやるときだけ調子がよくなってるんじゃないか？と対戦するたび思わされた。昨季もそうだったけど、岐阜戦での勝利がそのシーズンの初勝利になったことが確か２回ほどある。昨季の試合後のインタビューで東京緑の川勝監督が「今季初勝利ですね」と聞かれて、「そんなに初勝利、初勝利と言われると気分が悪い」と憮然としていたのが忘れられない。インタビュアーもとまどっていたが、「初勝利は初勝利じゃん。素直に喜べよ！」と思わず画面に向かってつぶやいたものだった。試合後数日が過ぎて流れた川勝監督辞任の報道。岐阜に負けたせいですか？ゴメンナサイ。まぁ、それは冗談にしても、何か感慨深いものがあるなぁ……。
試合の内容について触れるとしたら、前半40分前後のヘディングがバーに阻まれて決まらなかったことが勝因のひとつかもしれない。前半を０－０で終われたことが大きかったように思う。それから、ダニロには土下座して謝らなきゃいけない（笑）。得点する前のシュートチャンスでシュートを撃たず、そのせいであわやのカウンターを食らったことを含め「早く交替させろ！」と思ってました。ごめんなさい。その他に印象に残ったことといえば、前半のチャンスの場面。染矢のクロスが飛び込んだ秀人にわずかに合わなかったシーン。最終ラインからの攻撃参加は彼の持ち味。とはいえ、なかなかお目にかかれない代物を久々に堪能した。もちろん、ゴールを決めてくれたら言うことはないのだが、これからももっともっとああいうプレーを見せてほしい。
そして、これからの楽しみを増やしてくれたのが東京緑の４番。ヘディングをバーに当てたのも彼だったが、それ以上に試合で大活躍。足がつったダニロを介抱している地主園に絡んだり、ウチのキャプテンに頭突きかましたり、判定に不服だったのか、タッチラインの外で水分補給用のペットボトルを叩きつけたり。来年の対戦が楽しみだ。
（ぐん、）

【天皇杯】熊本 4-3岐阜（延長 2-1）

●日差しを受けた背中が焼けるように痛かった。日差しを正面から受けたわけではないのに照り返しのせいで顔が真っ赤に日焼け。前半途中で陽が翳ったとはいえ、まさに炎天下の中 120分を戦い抜いた選手たちに敬意を表したい。
おつかれさまでした。
結果から見ると、今季最多の３得点をあげながら４失点して敗退。しかも、前半開始後の 10分過ぎや延長前半開始直後に決められるなど、よくない時間での失点はいただけない。さらに、後半。樋口の鮮やかなゴールで逆転し、岐阜ペースで試合を進めていた中での２失点目。熊本ＤＦのなんでもないロングフィードをナゼだか譲り合って押し込まれるという情けなさ。試合後挨拶に来てくれた時に「あんな失点はダメだ！」と叫んでしまった。懸命に戦った選手たちには申し訳ないけど、やはりアレは敗因の大きなひとつ。あんな失点をしてるようでは今後のリーグ戦が思いやられる。残留のためにゼッタイ撲滅してほしい。関田と恭平、特に関田にはこれからの教訓にしていただきたい。くれぐれもよろしくお願いします。
それでも、キャプテン・マークを付けた関田の姿にはちょっとジーンとくるものがあった。ピッチ練習前の挨拶に出てきた時関田が先頭だったんで、「コレは関田がゲーム・キャプテンなのか！」と思っていたけど、なかなかにイイ感じ。来季以降にそういう姿が見られるようになるのが楽しみだ。
それでも、この試合の特筆はやはり樋口！同点、逆転ゴールを決めてくれて、さらには延長前半のダニロのゴールをアシストと全得点に絡む活躍。１点目はどうやって決めたのか近くで見てたのにわからなかったけど、相手に当たって角度が変わったんだね。２点目は満点のゴール。あと、バーに当たったシュートが決まっていれば……。樋口がハットトリックを決めていたら勝っていた。そんなふうに思ってしまうね。それから、久しぶりの出場だった尾泉。プレースキックを任されていたけど、その精度、距離は相変わらずでサイドチェンジには何度も見とれた。あとは、守備……だね。
冒頭にも書いたけど、あの暑さの中、選手たちは本当によく戦った。結果は残念だったが、もし勝っていれば次の試合は来月３連休明けの平日ナイター。しかも、会場が仙台。３連休の中日にアウェイで水戸と対戦し中二日でＪ１首位（９／８現在）の仙台と対戦し中三日で山形と対戦というスケジュールはキツい。リーグ戦に専念し残留を勝ち取るためには結果オーライ…だったかも。もちろん、どの試合も勝ってほしいし、そのために応援に行ってるワケで。欲を言えば、試合が引き分けでＰＫ戦での決着がボクとしてはよかったかも？などと思ったりする（苦笑）。総じて、双方とも執念を見せ合った好ゲームだった。それにしても。２週続けて九州遠征とか。しかも、平日……。（ぐん、）

ＦＣ岐阜サポによる
ゲリラ的Ｕｓｔ配信番組

今シーズンからのサポーター発信企画として、基本的にホーム戦の前日に、インターネットの動画共有サービス「ユーストリーム」を利用した手作り感満載の番組を下記アドレスで放送しています。サポーターの『生の声』をお愉しみください。
http://www.ustream.tv/channel/sstak12-fcgifu
次回は 9/22（土） 21:00開始の予定です。

【ユース】Ｇ２リーグ、優勝！

●我らがＦＣ岐阜ユースU-18（以下岐阜ユース）はＧ２リーグの全日程が終了しました。全９節を戦った結果７勝１分１敗の勝ち点 22で見事Ｇ２リーグ優勝となりました（パチパチパチ）。 2010年にＧ３への降格が決まって涙を流している岐阜ユースの選手たちを見た人間としては、選手の代替わりが有ったにせよ、今年の危なげない戦いぶりをしている選手達は見ていてとても頼もしかったです。これで来年度のＧ１リーグ参戦はほぼ確定となった筈です。今年の目標の一つはクリア出来ましたね。
今年の公式戦はＪユース選手権大会（＝ＪユースカップＪ）を残すのみ！実はこれまで岐阜ユースはＪユースカップで勝点を上げた事が有りません（汗）。今年こそは是非初勝点、初勝利をあげ、あわよくば決勝トーナメントへの進出をして果たして欲しいですね！我々に言われるまでも無く岐阜ユースのコーチングスタッフ陣は練習試合等を通して着々と準備を進めているようなので、期待しています。そしてＪリーグ様、お忙しいのかも知れませんが、（９月 11日時点で）まだ日程が発表されていないのは何故ですか？是非一刻も早く公式発表して下さい。お願いします。
（シュナ）

ＪＦＬの現在の状況について。

9/14時点のＪＦＬ順位表です（上位のみ）。

１位：長野パルセイロ	24試合：勝ち点 51
２位：Ｖ・ファーレン長崎	23試合：勝ち点 49
３位：SAGAWA SHIGA FC	23試合：勝ち点 39
４位：Y.S.C.C.	23試合：勝ち点 36
５位：ソニー仙台 FC	23試合：勝ち点 36
６位：Honda FC	23試合：勝ち点 36
７位：カマタマーレ讃岐	22試合：勝ち点 35

延期になっていた注目の「ライセンス申請対決」長崎×讃岐は、長崎が４－２で勝利しました。この結果、讃岐の２位以内（昇格権利発生）が少々厳しい状況となり、逆に長崎は２位以内でフィニッシュの可能性を高めました。もし長崎に「クラブライセンス」が交付されれば、今シーズンのＪ２最下位は入替戦か自動降格となる可能性も上昇したことになります。逆に、讃岐が成績面で厳しくなったことでＪ２の 21位は自動残留の可能性が高くなりました。
ＪＦＬは今日（9/17）まさに“大一番”の長崎×長野が行われます。もし長崎が勝利すれば、消化試合が１つ少ない現状から、長崎の優勝＝ライセンス交付次第で「Ｊ２最下位は自動降格」という状況が近づくことになります。

『岐大通』では、今後「ＦＣ岐阜のＪＦＬ降格」の可能性がなくなるまでＪＦＬ上位の状況も紹介していきます。
（吉田鋳造）

【第33節】北九州2-1岐阜

●アウェー北九州戦は残念ながら１－２の敗戦。２失点はいずれも守備の連携ミスを突かれての失点。特に立ち上がり早々の失点が痛かった。
いつものことなのだが、パスが２本目までは通るが３本目のパスが通らないこと、縦へのボールが入らないことここらあたりが改善されてこないと、なかなか攻撃が活性化されてこないだろう。それでも左ＭＦに入った尾泉のセットプレーでのキックは可能性を感じさせるものがあったし、樋口の惜しいミドルもあった。ゴール前での粘りで１点も返した。中２日という厳しい条件ではあるが、それは相手も同じ。順位の近い他チームの事は気にせず、しぶとく勝ち点を拾っていこう。
最後に新井のプレーは相変わらず粗かったなぁ（苦笑）。削られて負傷退場した地主園が心配である。（岐阜の誇り）
●雨上がり。非常に、というか非情なまでに湿度の高いバッドコンディションの中で最後までゴールへの意欲を見せて走り抜いた選手達。試合後の挨拶に訪れた彼らを迎えるには、やはり声援と激励しかなかった。ただ……。あまりにももったいない試合であったことには違いがなく、それも直前の天皇杯と同様にＣＢとＧＫの連携ミスという、あってはならないシーンを２試合連続、しかも前半６分での失点が結局のところ試合の趨勢を決してしまった。シーズン終盤のこの時期に来て、さらに選手が替わってもやってはいけないミスを目の当たりにして、開始早々脱力感を覚えたことを素直に告白する。
そして、あのミスを取り返す力がないというのが残念ながら今の状況ということだ。確かに、１点返した後の樋口のミドルは正直「決まった！」と両手を突き上げかけたし、前後半に一本ずつあったセットプレーからの池田のビッグチャンスもあった。ゲームを支配していた時間もかなりあったし、負傷交替で出場したハンジェ、後半途中からの出場のアブダは十分役割を果たし攻撃の活性化につながっていた。また、スタメンも変更し、天皇杯に続いての地主園を右ＳＢ、同じく天皇杯では左ＳＢだった尾泉を一列上げて左のＳＨに置く布陣。尾泉のキック力、精度は多少守備に目をつぶってでも……と思わせていただけにＳＨはベターな起用。実際９本を数えたＣＫでは何度も決定機を演出したし、追撃の得点も彼のクロスからだった（正直ミスキックかもしれないが……）。そのうえ、このところ負けなしらしい北九州も特に絶好調とは思えず、勝ち点を積み上げるチャンスは十分あっただけに、「あの連携ミスさえなければ……」と。本当に、本当に残念な敗戦だった。帰宅後録画を観戦したけれども、現地での印象よりはるかに互角の試合と感じて少々驚いている。現地で観戦した仲間の言葉を借りれば「前半のアノ状況から、後半はよくあそこまで盛り返した」という印象だった。だからこそ、悔しさは層倍になってしまうんだが……。
これで、３３試合が終わり勝ち点２６の２０位。すぐ下の富山とは勝ち点１、最下位の町田とは勝ち点３。今後は町田以外はすべて上位との試合という厳しい状況が続く。残留に必要な勝ち点は、以前にも書いたが残りの試合数と同じ数。つまり、残り９試合で９点。町田との直接対決に勝つことは必須とした上で、何が何でも上位のクラブから勝ち点を奪い取らなければならない。残留することが苦渋の決断によって交替した新旧首脳陣、そして支援を決意してくれた財界の気持ちに応えることになる。そして、残留を勝ち取ることが決定力には欠けるけれども組織の構築を着々と進めている行徳監督のチーム作りの継続させるための絶対条件。キャプテンがこのまま最後まで保ってくれるのを祈りつつ、このところ公式戦２試合で３得点１アシストとエンジンがかかってきた樋口や、２試合連続ゴールのダニロ、そして出場すればリズムを変えられるアブダの得点量産に期待したい。アブダがベンチスタートなのはコンディションの関係なのかもしれないが、それなら一刻でも早くベストに仕上げてほしい。もちろん、誰がゴールを決めてくれてもかまわない。２週続けての九州遠征、短いインターバルと非常にキツい日程だが、とにかく、先に失点をしないこと。決してあせる必要はない。厳しい状況は残留を争うライバルチームも同じこと。焦ることなく、闘争心を胸に戦ってほしい。
試合後の選手の挨拶が済んだ後、行徳監督がサポーター席に近づいてきて深々と挨拶をしてくれた。悔しい思いは監督も同じ。サッカーにミスはつきもの。覆水盆に帰らず。しかし、この試合でも逆転すれば、少なくとも引分けに持ち込んでいたら昇平は救われていた。彼自身が悔しさから２度も決定機を作り出した。その気持ちがあれば大丈夫！そして、このところ戦いぶりは決して悲観するようなものじゃない。続けていけば、残留は必ず勝ち取れるハズ。そのためにも、クラブにかかわるみんなが全力で支えることが必要だ。あせらず、自分のできることを全うしよう！
最後に、地主園選手の一刻も早い回復を心から祈願する。また、共に戦いましょう！（ぐん、）
●ホーム戦はメインスタンドで観ているので、アウェー戦でのタスキ近くでの観戦は新鮮。平日のナイトゲームにも関わらずやってきた歴戦の岐阜サポーター、その彼らをして「ああ、やっぱりテンション下がったなあ…」とわかってしまうような、そんな失点だった。どうして、ウチはああいうポカがなくならないのだろう。そして、そういうポカが失点になってしまうのだろう。前半のなかばからは、動き出しのタイミングの速さと加速度で明らかに北九州の方が上回っていて、このまんまだと後半はボコボコにタコ殴りされてしまうんじゃないだろうか…とさえ思った。
後半にも加点されてこりゃアカンわ～と思ったけれど、やっぱり北九州はあの動き出しを９０分続けることは出来なかったようで、岐阜がアブダを投入して攻撃が活性化すると一転して岐阜ペースに。シュートを相手ＧＫが弾いたところを樋口が押し込んで１点差。その後も押しっぱなしの時間帯はあったのだけど、樋口の実に惜しいミドルはＧＫが触ってクロスバーに嫌われる不運。結局、そのまま逃げ切られてしまった。
でも、決して「不運な負け」なんかじゃなくて、もう典型的な岐阜の負け試合だったのは否定できない。あの負け試合をよくあれだけ盛り上がるトコまで持っていったなあ……と好意的に捉えることも出来る。もちろん、「負けは負け」とバッサリ切り捨てることも可能。そんな試合だった。（吉田鋳造）
●結論からいうと、非常に後味の悪い試合だった。まずは前半６分、ロングボールの対応で＃31ＧＫ時久と＃３ＣＢ池田が連携ミスで交錯、こぼれたボールを＃11地元に押し込まれ、開始早々に信じられないような先制点を許す。前半３０分には、＃７地主園が（昨年まで岐阜に在籍していた）＃25新井にスパイクの裏で足を踏まれて負傷し、退場。悪質なアフターだったのにファールさえ取られず、ハットさんも行徳監督も相当に怒っていた。地主園は右足の脛骨（けいこつ）と腓骨（ひこつ）骨折で全治不明とか…無理はしないで欲しいけれど、１日でも早い彼の復帰を願ってやまない。その後の試合は、両チームともに乱暴なチャージが続出して、かなり荒れたものになってしまった。後半の失点は、シュートを時久が弾いたまではよかったけど、ボールがゴール前でフリーな＃21端戸の真正面に。その後＃32アブタが投入されてからは攻撃が活性化し、後半33分に＃10ＭＦ樋口が１点を返すが、同点には追いつけなかった。決定機としては岐阜の方が若干多かったように思うが、そのチャンスを生かせなかったのと、１点目の失点が大きく響いてしまった、とても悔しい敗戦だった。
（ささたく）